

福波物産有限公司

事業

製材の品質・生産性の向上と木材住宅の高付加価値化による受注増

対象類型

ものづくり技術

導入機械装置

自動一面鉋盤／エリート500DZ

経営理念

「木の質は住まいの質になる」を目指します

高度経済成長を予測し、多業種を手掛けて創業

建設、製材を中心に手掛ける福波物産有限公司。我が国の高度経済成長の流れを予測して1958（昭和33）年に創業して以来、多業種で事業展開し社業の伸展を図ってきた。

創業したのは、現代表取締役山形弘司氏の祖父・貞男氏。家業の林業に加え、需要が伸びていた住宅建設に対応するため製材、建築事業を始めたほか、精米事業などを幅広く手掛ける会社として物産の名称と、当時の地名の福波を冠して「福波物産」とした。40年ほど前に山形代表取締役の父・忠義氏が2代目として引き継ぎ、大田高校から岡山の建築専門学校を卒業し、地元の建設業者で2年間修業した後に家業に就いていた弘司氏が5年前に3代目を継いだ。

設定した厚さに加工する高機能で外注から内製化にシフトしたことで経費節減

時代の流れで、ハウスメーカーによる新築住宅が増える中、注文住宅を主体としているだけに、差別化を図る必要に迫られた。増・改築やリフォームの需要が増えていたこともあって、木のぬくもりを前面に出す特色のある提案をユーザーに行うため、忠義氏と山形代表取締役が相談して従来の鉋盤では不可能だった幅が広くて厚みのある製材ができる自動一面鉋盤を創業60周年の節目ということなどから、補助事業を活用して導入することにした。従来の鉋盤は幅が20㌘、厚みが18㌘までしか製材できなかったが、新しい鉋盤は幅50㌘、厚さ25㌘まで加工でき、つなぎ目のない一枚板の製品は見栄えも良く重厚感にあふれている。

また、従来は外注に出さなければならなかった天井などの造作品が自前でできるようになり、内製化によって削減された経費は、県産材の購入費に充てている。さらには、従来は厚さを確認するため、作業を中断して計測する必要があったが、あらかじめ設定しておけば自動で正確な厚さにする機能を備えており、山形代表取締役は「作業時間が20～30%短縮された。何よりも削りすぎではならないというストレスから解放されたことが大きい」と相好を崩す。



代表取締役 山形 弘司



①重厚な製材を可能にした自動一面鉋盤
②製材された幅広い天井板
③製作された長椅子
④製作された下駄箱



木のぬくもり、温かさを武器に心が休まる住宅、造作家具をPR

購入する原木は、100%島根県産材で、杉は直径40㌘以上を山形代表取締役が目利きをして仕入れている。長年の経験から、製材したときの板目などが予測でき、テーブルや長椅子、天井板などに最適な製品を提供している。完成した造作家具を身近に感じてもらうため、鉋盤の導入に合わせて山形代表取締役の親族の家屋を展示場も兼ねて近所に新築。木の香りがする家で顧客にテーブルや棚、壁などに手で触ってぬくもりを感じてもらっている。

「木の質は住まいの質」を目指してクロス張りの家にはない、木の温かさ、優しさをアピール。100年持続する家は価格が高くて、暮らす人の心を安らげることを訴求している。営業エリアは出雲市から益田市まで、建設が約8割、製材が約2割の比率。これからも、地元を見据えて顧客と一緒にどんな家建て、どんな家具を使うのかなどを考えて提案に力を注ぐことにしている。新たに石見神楽面を飾るための面板の需要があるなど、幅と厚みを生かした新たな需要の開拓にも努め、年5%の増収を目標に据える。山形代表取締役は「建設業の業況は厳しいが、木造建築の付加価値を高めることで、ユーザーの心をつかみ、地道に業績をアップさせたい」と意欲をみせる。

Company Data

福波物産有限公司



外観

代表者名	山形 弘司
設立年	1958 (昭和33) 年
資本金	10,000千円
従業員数	10名
主たる業種	総合工事業
本社	〒699-2514 大田市温泉津町福光ハ1621-91
電話	0855-65-2311
F A X	0855-65-2328
U R L	https://fukunami.jp